



Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 51

R1.11.27

今月のキーワード

学習到達目標の自校化

小・中学校授業実践より

今年も残すところ僅かになりました。来年度はいよいよ小学校5、6年生で英語が教科化となります。今年度当初に市としてお示した「学習到達目標」（各学校で自校化）について、来年度は活用していただきたいと考えています。小・中学校間で授業を参観したり乗り入れ授業を実施したりする中で、どのような教材を使って、どのように授業が展開されているかを共有し合い、子どもの学びに軸足を置いた授業づくりを考えていきましょう。

「学習到達目標」の自校化（例）

- ・相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりすることができる。（ア）
- ・身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。（イ）
（しもつけ未来学習との関連）
- ・自分に関係することや身の回りの物についての質問に、その場で答えたり、相手に質問をしたりして、**短い会話**をすることができる。（ウ）

小学校学習到達目標の6年生「話すこと（やり取り）」(左図)を考えてみます。学習到達目標は、「どのような条件のもとでできるか」「どの程度できるか」「どのような内容であればできるか」などが記載されています。文中にある言葉を確認し、**達成された子どもの姿が具体的にイメージできるか**、そして**先生方間で共通理解されているか**を確認していただきたいと思います。例えば、「短い会話」を、どの程度の分量を考えるのか（2ターンの会話など）、校内で具体化しておくことが考えられます。



授業実践より（南河内第二中学校）

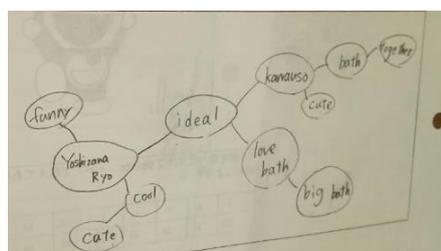


●南河内第二中学校3年生のクラス（和田真理子先生）での実践例

＜学習活動＞My ideal future with my ideal partner. というテーマのもと、自分のスピーチをつくる。

- ① マッピングをする（キーワードのみを書く）。 →② ICレコーダーに自分の声を録音する。
- ③ ペアの相手に、録音した音声を聞いてもらう。 →④ お互いのスピーチについてアドバイスをする。

※ICレコーダーは今年度全中学校に18台ずつお配りしました。



上記のように、録音した自分たちの声を聞き直して修正をしたり、ペアでの会話を聞き返して書く活動につなげたりするなど、活動の幅を広げることができます。「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能を関連させた活動を工夫してみてもいいでしょうか。



ICレコーダー



授業実践より（国分寺東小学校）



●国分寺東小学校2年生のクラス（担任の塩谷房子先生、JTEの西東陽子先生）での実践例

<めあて> 遊園地にいる人についてクイズを出そう

① Small Talk → ② めあての確認 → ③単語の確認 → ④ 伝え合う活動（クイズ）→⑤ 振り返り



Small Talk



Where is Tomoko-san?



2年生の国語の教科書（「ともさんはどこかな」）を使い、クイズを出し合いました。

国語で学習したページ（絵）を使うことで、子どもたちは教材を身近に感じることができ、活動の見通しをもつことができました。



Red shirt,
Water bottle,
Rabbit.

伝え合う活動



色や服装、身に付けている物や動物など、自分で考えたヒントを友達に伝えることができました。子どもの伝えたいという思いを大切に授業でした。

ハロウィンイベント（吉田東小）

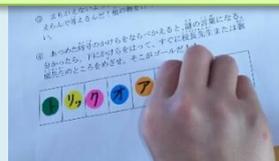
10月31日（木）昼休み、吉田東小学校において第2回イングリッシュタイムが行われました。先生方が、子どもたちに英語でクイズを出し、文字を組み合わせてキーワードを当てる活動です。ハロウィン衣装に変装した先生方を見て、子ども達も大喜び。全児童が楽しい時間を過ごしました。



① 先生方によるデモンストレーション



③ 集めたシールを貼り合わせてキーワードを作ります。



② 先生方に質問し、シールをもらいます。



「英語大好き！」な児童が増えていくことを願います



文責 学校教育課 稲葉亜希恵

